

熱海土木 工事事故防止 ニュースレター

工事事故「0」を目指して

2025.7

1号

令和7年7月に網代漁港において、消波ブロックを据え付ける作業中、合図等をする作業員が乗っていたブロックから転落した工事事故です。
今後も事故事例や事務所独自の取組など情報を発信し、工事事故の防止を図ってまいりますので、よろしくお願い致します。

消波ブロックを据え付ける際に、隣接するブロックに乗り、合図等を行っていた作業員が転落！

【令和7年6月26日(木)11:20工事事故発生】



事故概要

No22のブロックを所定箇所に据付けたところ、据付けたブロックの重みで下層のブロックが沈下した影響により、No.22に隣接するNo.18のブロックが90° 転倒し、転倒したブロックの天端部に乗っていた作業員(据付合図者)が転落した。作業員は転落時に、沖側の既設ブロックに一度衝突し、その後海中に落下し、複数箇所を骨折し、受傷日より約1カ月間の入院加療を要す見込みと診断された。

熱海土木 工事事故 発生件数	事故 分類	工事関係 者(傷害)	第三者 (傷害)	第三者 (物損)	工事事故 合計	令和7年 6月末 現在
	件数	1件	0件	0件	1件	

事故原因

①【確認作業の不足】

合図者が乗るブロックについて、**合図者1名**で、かみ合わせ、3点以上支持を確認していた。また、その確認が不十分であり、3点以上支持されていなかった。

②【危機意識の不足】

合図者は、新たに据え付けるブロックの荷重で動く可能性があるにもかかわらず、据え付けるブロックの**隣接ブロック上で作業**を行っていた。

③【作業手順の共有等の不足】

今回の事例について、**作業手順書**に記載されていなかった。

再発防止策

①【作業及び安全確認の手順】

消波ブロックの据付け時には、**必ず複数名で支持確認する**と共に、作業及び安全確認については、次の①～⑥の手順で繰り返し行うことで、作業の安全性を確保する。

- ① 合図者が乗るブロックを3名以上で3点以上支持を目視確認する。
- ② 合図者は、**足元の安全性に配慮**しながら、ブロックに**慎重**に乗る。
- ③ 合図者は、**クレーンオペレーター等と連携**しながら指示し、ブロックを据付ける。
- ④ 少し時間(10秒程度)をおき、3名以上でブロックが動かないこと(かみ合わせ)を目視確認する。
- ⑤ 玉掛け者は、**周辺のブロックに変動が生じていないか十分に注意**し、玉掛けワイヤーを外す。
- ⑥ 次に合図者が乗るブロックを3名以上で3点以上支持を目視確認する。

※**上記手順における目視確認は、合図者・クレーンオペレーター・玉掛け者の3名以上で行う。**

作業手順の詳細は次ページのポンチ絵を参照

②【合図者等の作業】

消波ブロック据付け時の合図者は、**原則、足場の良い場所(防波堤等)で合図・かみ合わせ確認を行う**こととし、作業の進捗等に伴い、目視が困難等でやむを得ない場合に限り、上記1により**安定を確認した消波ブロック上で合図・かみ合わせ確認を行う**こととする。なお、隣接する消波ブロック上に入ろうとする者がいた場合は、**常に声掛け**し入らないようにし、作業員の安全管理を徹底すること。

③【作業手順の周知の徹底】

今回の工事事故の原因を踏まえた対策を、**作業手順書に記載**するとともに、**全作業員に周知**し、作業の安全性を確保すること。

また、**施工計画書にも作業手順、安全確認方法等について記載**すること。

再発防止策(ポンチ絵)(港外側より見た縦断図)

